

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十三年六月二十五日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲 學 研 究

第 二 十 三 卷 第 七 册

第 二 百 六 十 八 號

昭 和 十 三 年 七 月 一 日 發 行

行 爲 と 論 理 (承 前)

文 學 士 島 芳 夫

批 評 の 藝 術 史 的 意 味

文 學 士 井 島 勉

相 對 性 理 論 を め ぐ る 認 識 論 的

諸 問 題 (承 前) 文 學 士 近 藤 洋 逸

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部

京 都 哲 學 會



前 號 目 次

カントの先天總合判斷の最高原則について(承前)……………文學士 大西友太

觀ることに於ける言語……………文學士 河本敦夫

眞智と解脱……………文學士 松尾義海



# 哲學的人間學

京都帝大助教授

高山岩男著

菊 刊 四〇〇頁  
クローズ装 上製函入  
定價二・七〇 送料三三

## 新刊

現實は單に理性的のものでないと共に單に衝動的のものでない。單に論理的のものでないと共に單に無構造のものでもない。私は「生」「作」「成」を人間生存の三つの基本的な仕方と考へ、こゝから人間生存の構造や發展を説明しようとし、それと理性との諸關係を説明しようとした。私は哲學は存在論や認識論に基礎を置く哲學でなく、人間學に基礎を置く哲學でなければならぬと思ふ。でなければ生命共同體や労働や技術や所有などの社會的事實、更に文化の根柢に存する民族性の如き事實は理解できない。況や正鵠な文化政策の如きものが立つ筈はない。私は人間學の統一的觀點から諸種の現象を體系的に説明しようとした。これが他の諸科學の立場に聯絡できれば幸である。(著者)

目次概要―序論 人間學の概念 第一章人間の原來的社會性(人間と生命)Ⅱ血と性 生命 個人の成立 第二章労働の現象學(人間と労働)Ⅱ労働と實在 技術と理性 労働の主體 交換と理性 所有と労働 第三章文化の人間學的研究Ⅱ文化形式の構造 表現の領域 言語 慣習 神話 象徴

西田哲學 高山岩男著

四六判 四三二頁

定價 一・〇〇 送料 二二

東京 神田 岩波書店 振替 東 〇四二六二

(大正五年四月六日)昭和十三年六月二十五日印刷納本(毎月一回)  
(第三種郵便物認可)昭和十三年七月一日發行(一日發行)

哲學研究 第二百六十八號 定價金四拾五錢 郵税金壹錢五厘